わしたしまの情熱キーパーソン

行政の人たちと地域のみんなが一緒になって動けば、
地域はより快適に、もっとハッピーに。
このコーナーでは、そんな地域づくりに取り組む
地域住民と行政担当者の「協働」について紹介していきます。

座間味村

慶良間海域保全会議を発足。官民一体となって自然環境の保全に取り組む

座間味村は、平成十七年十一月、同村周辺の慶良間海域の一部がラムサール条約に登録されたことを受け、環境プロジェクト「楽園―ZAMAMI」を立ち上げました。同プロジェクトチームのメンバーの一人、総務企画課長の垣花健さんは、「目的は美しい島の自然を護り、次世代に残していくこと。行政主導ではなく住民との協働がテーマです」と、その理念を語ります。

ウミガメが安心して産卵できるようにするために子どもたちも一緒になって住民によるビーチクリーン作業を実施

最初の取り組みとして、翌年三月、慶良間海域保全会議を発足させ、同海域を共有する渡嘉敷村とともに、官民一体となって海域の保全をすることを宣言しました。同会議は、両村のダイビング事業者をはじめ、観光関係者、商工会、漁協、両村の役場で構成。オニヒトデ対策や、ビーチクリーンなどの保全活動を行うとともに、自然環境保護と安全などについての自主ルールの策定にも取り組んでいます。「行政を超えた取り組みの意義は大きいと思います。さらに、平成十九年五月、海域のみならず、陸域についても保全を進めることになり、名称も『慶良間自然環境保全会議』に変更されました」と語る垣花健さん。

同会議の理事長は両村の商工会長が一年交代で就任。今年度の理事長は座間味村の垣花武信さんです。「平成十五年度に商工会で『座間味村地域振興計画』にかかるプロジェクト計画』を立ち上げましたが、その中の一つに『サンゴ保全プロジェクト』があり、そのときからすでに海域やサンゴにストレスをかけない仕組みづくりに取り組んでいました。慶良間海域で生まれたサンゴの卵が黒潮に乗り、沖縄本島にたどり着くことが阿嘉島臨海研究所のデータから、わかっています。いわば慶良間の海はサンゴの里海とも言える。人間と海の生き物が共生しているエリア、これをわれわれは大切にしなければいけない」と熱く語る垣花武信さん。

行政や観光関係者、地元住民、さらには観光客も巻き込んで、豊かな慶良間の自然が、次世代に受け継がれていきます。

慶良間自然環境保全会議理事長
垣花武信さん

座間味村総務企画課長
垣花健さん

座間味村役場　総務企画課
TEL:098-987-2311

北谷町

住民ボランティアとして食生活改善推進員を養成。協働で地域の健康づくりに努める

北谷町は、平成十六年度から住民を対象にした食生活改善推進員養成講座を開講しました。現在、同講座修了者の中から二十八名が食生活改善推進員として、それぞれの地域で食生活を通した健康づくりの活動を行っています。

「受講者は、自分や家族のために食と健康の関わりについて勉強をしたいという思いが強いようです。その方々が、日々の暮らしの中で年中行事や友人との集まり、あるいは地域の催しなどを通して、講座で得た知識を周りに伝えていく。そんな草の根運動のような広がりを期待しています」と、同講座を主催する北谷町保健衛生課の大城朝乃さん。

さまざまなイベントで試食コーナーをもうけて、食生活のあり方を提案。みんなで力を合わせて、手際よく試食品を仕上げていきます。

月一回の定例会を終えて、食生活改善推進員が揃って記念撮影。チームワークはばっちりです。

初年度から三年間は年一回の開講でしたが、昨年は食生活改善推進員を対象とした育成講座を開講しました。また、月一回の定例会を開催し、さらなるスキルアップを目指すとともに推進員同士の交流を深めています。五年目の今年は応募者多数のため、二度に分けて養成講座を開講するなど、人気の高まりを見せています。

今年五月に立ち上げたばかりの北谷町食生活改善推進協議会会長を務める石原美津子さんは同養成講座の第一期生。「料理が好きなので、調理実習にひかれて参加しました。活動内容は、地域の方たちを集めて料理講習会を開いたり、北谷町健康・福祉まつりなどのイベントで食に関する展示を行ったりしています。さまざまな出会いがあり、友達の輪が広がっています」と充実した日々を送っている様子。今年は、特に食育に力を入れていて、子どもたちと一緒の調理実習なども企画しているそうです。

「食生活改善推進員として活動できる人をもっと増やしたいですね。目標は百名」と意欲的に語る大城さん。行政と住民ボランティアによる協働で、地域の健康づくりの普及に努める活動は徐々に広がりを見せ、その成果に期待が寄せられています。

北谷町保健衛生課
栄養士 岡田芽衣子さん　管理栄養士 大城朝乃さん

北谷町役場　保健衛生課（保健相談センター）
TEL:098-936-4336

編集後記

先月、娘の運動会に参加してきました。一生懸命平均台を渡る娘を見て成長しているな～と感動。また、今年は保護者の出し物として、エイサーを踊りました。いざ本番になると、最終回2アウト満塁でのバッターボックスに立つ時よりも緊張していました。結果は：：ポテンヒットだけど、サヨナラ勝ちでした♪（結果オーライ）実は、娘よりも自分が楽しんだ運動会でした～（ノア）

先月末、栃木県にいる大学時代の旧友から宅配便が届いた。「珍しいな、何だろう？」と思いつつ、箱を開けてみると、それはもう立派な梨で箱の中にビッシリと並んでおり、ひとつひとつの大きさがソフトボール大のサイズでした。梨を手にとってその大きさに見とれていたら、隣で娘（6つ）が梨二つをゴソゴソと服の中に入れておっぱいごっこしていました。娘よ、お前にはまだ早いです！（Tako）

沖縄県広報誌　平成20年11月1日発行第32巻11号通巻398号

美ら島沖縄

企画・編集・発行　沖縄県知事公室広報課
〒900-8570　那覇市泉崎1-2-2
TEL.098-866-2020

■表紙 写真・文：今泉 真也
秋の入口。木陰の多い公園で親子の時間。
落葉樹の少ない沖縄でも、カラフルな枯れ葉は子どもたちの遊びの友。
親の愛情と自然の恵みに包まれて子は育っていく。

■P12-P13 季節情報提供
（財）沖縄観光コンベンションビューロー